

「消費税を価格に転嫁できない」が4分の1も

上越市産業観光部はこのほど、中小企業実態調査を行い、その結果（速報集計）を明らかにしました。

それによると、市内の中小業者の売上、収益とも「前年度に比して改善した事業所と悪化した事業所の二極化」が進んだとしていますが、売上が収益が5%以上悪化した事業所は全体の46%から49%と半数近くになりました。

また、消費税の価格転嫁の状況ですが、「できていない」と答えた事業所は45%にとどまり、「一部できていない」「できていない」は合わせて54%にも及んでいます。

こうした調査結果を見ると、いま安倍内閣がすすめている消費税増税が事業所の経営に大きいのしかかっていることがわかります。来年10月から消費税を10%にするなん

てとんでもないことですね。今回の市の調査は、市内の中小業者の経営状況や課題、消費税値上げによる影響を調査するために、市内の4370事業所を対象に取り組んだものです。調査方法は郵送によるアンケート調査で、6月2日から20日までの期間で行われました。回答は1373事業所からあり、回収率は31.4%ということでした。

消費税の価格転嫁の状況

	できて いる	一部で きてい ない	できて いない	構成比		
				できて いる	一部で きている	できて いない
農業、林業	3	3	8	21.4	21.4	57.1
鉱業、採石業、 砂利採取業	0	1	0	0.0	100.0	0.0
建設業	148	86	78	47.4	27.6	25.0
製造業	84	30	30	58.3	20.8	20.8
情報通信業	5	2	0	71.4	28.6	0.0
運輸業、郵便業	6	1	5	50.0	8.3	41.7
卸売業、小売業	199	147	66	48.3	35.7	16.0
宿泊業、飲食 サービス業	31	41	48	25.8	34.2	40.0
生活関連サー ビス業	26	29	44	26.3	29.3	44.4
その他サービ ス業	35	13	9	61.4	22.8	15.8
合計	537	353	288	45.6	30.0	24.4



写真は板倉区光ヶ原高原のそば畑

(仮称) 厚生産業会館、介護保険などで多彩な質問と提案

市議会主催の市民のみなさんとの意見交換会が18日から20日まで公民館諏訪分館など6会場で行われました。私は諏訪分館と富岡の芙蓉荘での会にスタッフの一人として参加してきました。

このうち、芙蓉荘会場では、「武道館は県知事は上越にとっている。これを中規模にするのか大規模にするのか伝わってこない。全国大



会やれるように周辺整備も必要だ」「議会は厚生産業会館をプールの跡地にすることを承認したのか。なんであそこがよいのか」「津波対策として、交差点に標高表示を出してほしい。矢印をつけてこっちの方が高いというのがわかるようにしてほしい」「来年度は介護保険法は改定だ。上越市はどう考えているのか」などの質問が相次ぎました。



【シラヤマギク】キク科の多年草。漢字で「白山菊」と書きます。花期は8月から10月。日当たりのいい山地や林縁で白い花を咲かせます。若芽は山菜として食べられるそうです。花言葉は「丈夫」です。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1671 2014.8.24
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hoset.jp/

ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三一九回 伯母の握手

お盆前に九七歳の伯母の家を訪ねてきました。二年前に県立松代病院に入院し、奇的に回復した伯母です。最初に声をかけた時、自分の部屋の網戸を通して私を見つけた伯母は「あらまあ」と言って私の顔を見つめていました。

入院中に大工さんから造ってもらった伯母の部屋は畑のすぐそばにあり、東側と南側に網戸のついた窓があります。伯母のベッドが近い南側の網戸のところへ行って、もう一回、「ばちや、いなつたねや」と声をかけると、伯母は網戸を開けてくれました。

窓のそばに来て、窓枠に肘をついた伯母は身を乗り出すようにして私の手を握りました。それも、腕相撲をやるときのように力を入れてでした。これにはびっくりしましたね。「ばちや、力、あるなあ」と言うとう伯母はニコニコ顔になりました。

伯母はいつ会っても、必ず、私に訊いてくることがあります。それは母の様子です。「おまんたとこのばちや、達者か」そう言った伯母に、「家の中で寝ているよ」と答えたものですから、具合が悪いと勘違いしたようです。真剣な表情で、「大丈夫んがかと再び訊いてきました。「あつたすけ、寝てるだけだわね」と言ったところ、今度は分かってくれたようです。「そんならいいども」と伯母は静かに言いました。

母の安否を確認してホッとしたのでしよう、今度は、「おまんたばちや、小さいけど達者だ。オレはでっけいけども駄目だ」と思い出したように言いました。伯母の目には自分よりも背の低い母が畑仕事や笹採りなどで動き回っている姿が焼き付いているようでした。「最近、おらちのばちやも太ってきたよ」と言おうと思っただけですが、そう言えば、伯母に余計な心配をかけるのでやめにしました。

私と話をしている時、しばらく伯母は私の手を握ったままでした。それは以前にはなかったことです。これまで伯母の手をじっくり見たことはなかったのですが、この時は見ました。そして、初めて気付いたことがあります。伯母の右手は人差し指、中指、薬指、いずれも内側に「くの字」型に曲がっていました。左手も何本かの指が曲がっていました。働いてそうだったのか、それともリュウマチなどの病気ですうなったかは訊いてみませんでした。伯母が畑仕事などで頑張ってきたことを知っているだけに、私には伯母の「頑張りの象徴」のように見えました。

この日は午後から雲が出てきました。ふわふわした雲ではなく、ひよつとすれば雨が落ちてくるかもしれないと思わせる雲でした。伯母に「雨、降りそうだねや」と言うと、「降るてもでも」という言葉が返ってきました。テレビの天気予報でも見たのでしようか、思っていた以上にしつかりしているなと感心しました。

伯母の手を離してから伯母の家の北側に数本ある大きな杉の木を見上げました。セミの大きな鳴き声が聞こえたからです。いつもの年なら、ひとつのセミが鳴きやむと間をおかず次々と鳴き声が続きますが、今年は一いつ鳴き止むといつとき、静かな時間ができることがあります。それだけセミの数が減っているのかも知れません。

手を離しても私の顔をずっと見ていた伯母は、「入って、お茶飲んでいかんねがかい」と何回か繰り返しました。私はこの日、新聞配達など、まだたくさん残っていました。できるだけ早く私の事務所に戻って、大量のビラ印刷をしなければという思いもありました。その場では「いや、飲んでらんねがど」と答えたのですが、後に伯母の握手を思い出し、反省しました。「じゃ、飲んでつか」と言えばよかったです……。

光ヶ原での畑作、筒方の水耕栽培を視察



市議会食料農業農村議員連盟は19日、板倉区内で農家民宿、水耕栽培、光ヶ原高原での野菜栽培などを見てきました。

このうち、筒方では、上越ニュービジネス研究会の水耕栽培の取組(写真左上)を視察してきました。非結球レタスのほか、ネギなどいくつかの野菜で実験を重ねていて、一部は販売もしているそうです。レタスは播種から育苗、定植、育成を経て収穫するまでに約6週間。収穫した葉を口にしてみたら、パリッととてもいい感じでした。こ

の取り組みを知ったあるグループホームからは、「みんなで楽しみながら育ててみたい」という声が寄せられているとのことでした。今後、どう発展していくのか注目していきたいと思えます。

光ヶ原高原でそばを作っている新井清三さん、ブロッコリーを栽培をしている中島茂さんの話も聞いてきました。(写真左下)

草地が荒れるのを防ぎ、後を継いでくれる若者の出現を待っているという新井さん、経営的には厳しい中で、「ここにいるのが一番いい。老人の趣味の世界だ」と言って笑いました。中島さんも、「雪のない時期に一回きりの出荷、雪が降ったら終わり」とたいへんさを言いながら、それでも、ブロッコリーや大根栽培についてうれしそうに語りました。農業を愛し、ふるさとを愛する二人の生き方を応援する農政をいまこそ。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	8月13日(水)	8月20日(水)
上越南消防署	0.030	0.030
上越北消防署	0.043	0.043
新井消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.043	0.040
頸北消防署	0.043	0.043
東頸消防署	0.060	0.043
高士分遣所	0.040	0.043
名立分遣所	0.040	0.050